



S.Naka

## THE TENNO SHO(SPRING)

## 第171回 天皇賞(春) (GI)

1着 賞 300,000,000円 120,000,000円 75,000,000円 45,000,000円 30,000,000円  
付加賞 3,150,000円 900,000円 450,000円



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

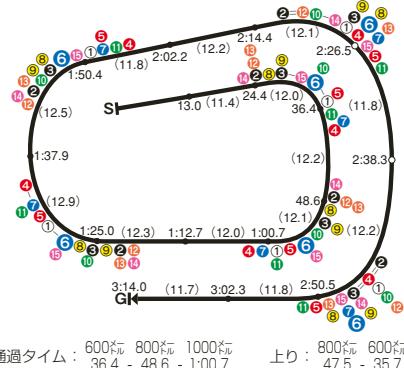
負担重量 58kg、牝馬2kg減

2025.5.4 京都 晴・良 芝3200m (国際) (指定)

順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー (着差)	上り	馬体重 (600kg) (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	ヘデンツール	牡 4	58	D.レーン	3:14.0	6-7-6-5	35.3	478(-4)	3.11	木村哲也(美浦)	118
2	⑭	ビザンチンドリーム	牡 4	58	A.ショタルク	14-14-12-8	34.9	454(-)	11.66	坂口智康(栗東)	117	
3	⑧	ショウナンラブンタ	牡 4	58	武 豊	3	8-8-6-3	36.0	542(±0)	9.74	高野友和(栗東)	114
4	⑤	サンライズアース	牡 4	58	池添謙一	2	4-3-2-2	36.4	530(+4)	4.52	石坂公一(栗東)	112
5	⑪	マイネルエンペラー	牡 5	58	丹内祐祐	1 1/4	2-2-1-1	36.7	488(±0)	19.78	清水久詞(栗東)	111
6	⑬	ジャスティンパレス	牡 6	58	鮫島克竜	クビ	12-12-3-3	36.6	474(±0)	4.93	杉山晴紀(栗東)	111
7	⑨	シュヴァリエローズ	牡 7	58	北村友一	3 1/2	11-10-9-8	36.9	468(+2)	31.48	清水久詞(栗東)	107
8	③	ブローザホーン	牡 6	58	菅原明良	1	9-8-9-8	37.0	434(±0)	11.46	吉岡辰弥(栗東)	106
9	⑫	ワープスピード	牡 6	58	横山和生	7	14-14-14-11	37.1	508(+2)	117.80	高木 登(美浦)	99
10	⑦	フラダリア	牡 6	58	松山弘平	1	2-3-3-5	38.6	476(+2)	57.00	池添 學(栗東)	98
11	⑯	ハヤテノクノスケ	牡 4	58	岩田望來	2 1/2	6-6-3-5	38.9	536(-4)	17.57	中村直也(栗東)	96
12	②	ワインエアフルク	牡 8	58	幸 英明	大差	12-12-15-15	37.6	484(+4)	278.95	根本康広(美浦)	81
13	⑩	リミットバスター	牡 5	58	岩田康誠	1 1/2	9-10-13-11	40.5	524(±0)	249.40	杉山晴紀(栗東)	80
14	④	ジャンカズマ	牡 7	58	野中悠太郎	1/2	1-1-6-11	40.8	488(-4)	193.80	西田雄一郎(美浦)	79
15	①	アラタ	牡 8	58	大野祐弥	7 1/2	5-5-9-11	40.9	468(-14)	200.20	和田勇介(美浦)	79

単勝⑥310円(1人)\* 複勝⑥140円(1人)\* ⑭290円(6人)\* ⑧260円(4人)\* 枠連④-⑧900円(3人)\*  
馬連④-⑯1,810円(6人)\* ワイド④-⑭680円(6人)\* ⑥-⑧630円(5人)\* ⑧-⑭1,690円(23人)\*  
馬單⑥-⑭2,800円(8人)\* 3連複④-⑧-⑭5,500円(16人)\* 3連単④-⑧-⑭22,360円(58人)\*

5重勝④⑦⑮⑩⑯2,176,650円(336票) 対象競走：東京10R／京都10R／新潟11R／東京11R／京都11R



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m 36.4 - 48.6 - 1:00.7 47.5 - 35.7

### アラカルト

- D.レーン騎手は天皇賞(春)初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算16勝目
- 木村哲也調教師は天皇賞(春)初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算35勝目
- ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算38勝目
- 4歳馬の勝利は23年ジャスティンパレスに続く通算52回目
- 8大競走を完全制覇した馬主は有サンデーレーシング、金子真人ホールディングス(馬主名「金子真人氏」含む)に統いて(有)キャロットファームが3例目

# ヘデントール *Redentor*

牡 黒鹿毛 2021.4.6生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・有キヤロットファーム 美浦・木村哲也厩舎  
馬名意味・救世主(ボルトガル語)。コルコバードの丘のキリスト像より

		アズテックヒルUSA系 F17-b	
ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo	
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	マンファスIRE	
		トニービンIRE	
		ダイナカール	
コルコバード 黒鹿毛 2013	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA	
		ゴールデンサッシュ	
	エンシェントヒル 鹿毛 2001	エンドスヴィープUSA	
		アズテックヒルUSA	

5代までのインブリード:Mr.Prospector S4×M5 ノーザンテーストCAN S4×M5

# INTERVIEW

佐々木淳吏 厲害長(ノーザンファーム 空港)

理想通りの走りを見せてくれました

鞍上のD.レーン騎手は調教で跨った際の感触を伝えつつ、木村調教師とレースプランを固めていたそうです。それもあってか、スタートから理想通りの走りを見せてくれました。最後の直線で追い込んできたビザンチンドリームも育成馬です。GⅠの舞台で同世代の2頭が並んだ時はホースマン冥利に尽きた思いでした。2頭ともに今年はさらなる活躍を期待しています。



H Yamanaka

ルーラーシップ産駒の本馬は新馬単勝後、未勝利、1勝クラス戦を連勝。続く青葉賞では一番人気に支持された経歴を持つ。このときは終始流れに乗れず、8着に敗れたものの、2、3勝クラス特別を連勝して挑んだ菊花賞で2着。始動戦のダイヤモンドSは息の長さを見せつけた。変則的な展開となつたこの日も、初めてコンビを組んだ鞍上と息の合った走りで快勝。重賞連勝でGI初制覇を果たし、4歳世代を代表する1頭に躍り出た。

父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首20戦8勝(クイーンエリザベスⅡ世C・香G<sub>1</sub>、アメリカジョッキークラブC<sub>II</sub>、日経新春杯G<sub>II</sub>、金鯱賞G<sub>II</sub>、鳴尾記念G<sub>III</sub>、宝塚記念G<sub>1</sub>2着、ジャパンC<sub>II</sub>3着)、13年から供用  
〔代表産駒〕ソウルラッシュ(ドバイターフG<sub>1</sub>、マイルチャンピオンシップG<sub>1</sub>)、キセキ(菊花賞G<sub>1</sub>)、ヘンドントール(本馬)、メールドグラース(コーヒールドC・豪G<sub>1</sub>)、ドルチェモア(朝日杯フューチュリティS<sub>II</sub>)、マスクトディーヴァ(阪神牝馬S<sub>II</sub>)、ダンビュライト(京都記念G<sub>II</sub>)、リオンリオン(青葉賞G<sub>II</sub>)、ワンダフルタウン(青葉賞G<sub>II</sub>)、ムイトオブリガード(アルゼンチン共和国杯G<sub>II</sub>)、エヒト(小倉記念G<sub>III</sub>)、他に重賞勝ち馬多数

母コルコバード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央16戦5勝(湾岸S、箱根特別、丹頂S 2着、スイートピーS 3着)

パンデアスカル(20 牡父モーリス)中央16戦2勝 現

**デントール** 本馬(21 牡父ルーラーシップ)中央9戦6勝(△)  
イヤモンドS GⅢ、日本海S、町田特別、菊花賞GⅠ 2着)

獲得統

## (22 流産)

クライストヒル(23 牡父)

### (25) 花文工ヒノアズメ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央7勝(ファイナルS<sup>0</sup>p、仁川S<sup>0</sup>p2回、トーナメントS<sup>0</sup>p、灘S<sup>0</sup>、2差)、地方0勝、22年春季不明

#### クリコバード(12 前出)

ヨルコ  
川カビ

| 別)

曾祖母アズミタヒル・USA

北米8勝(ファンタジーS<sup>G</sup><sub>2</sub>、ブラックアイドスーザンS<sup>G</sup><sub>2</sub>、ハニービー-S<sup>G</sup><sub>3</sub>、  
ブサンダ S・L、サンボネットS・L、コティリオンH<sup>G</sup><sub>2</sub>2着、ハニービー-H<sup>G</sup><sub>3</sub>  
2着)、05年輸入 04年輸中(豪)

トヨハラヒロ(01 前出)

メヤン・プロフェシー Mayan Prophecy(00 牧公Spitzel)高3 暈

昨年の覇者元一オー「イヤル」は戦列を離れており、日経賞から始動(3着)した菊花賞馬アーバンシックも宝塚記念へ。空位となつてゐる長距離界の王座を争つ春の天皇賞は、3000m級のステップレースでワントライドの勝利馬を飾つた4歳馬ヘントール、サンフライズアースと、隔年制覇に挑む6歳の雄ジヤステインパレスが中心勢力と目された。結果は4歳馬が1~4着を独占。頭ひとつ抜けた支持を集めめたヘントールがアタマ差の接戦に競り勝ち長距離王の称号を襲名した。

かること様相が一変。日経賞の勝ち馬マインエルエンペラーが坂の上りで主導権を握り、好位を追走していた阪神大賞典の王者サンライズアースも気合をつけられて前に迫る。さらにはジャステインパレスも後方から進出を開始。坂の下りでは3番手まで位置を上げた。

一方、ヘントールのD・レーン騎手は冷静に中団を追走。坂の下りで差を詰め、4コーナーで外へ持ち出しして追い出しにかかる。先に抜け出しをは

一騎打ちに競り勝ち長距離王の座へ